

20XX/4/1 何とか無事に卒業する方法に関する研究

機械工学課程 ロボティクス研究室
00123456 工織 ろぼ太郎

1. 緒論

本研究は、急務とされている卒業のために有効な方法の1つとして、前刷りのスタイルを説明する。

2. スタイル

基本的にこのまま使えるはずですが、本文が多すぎて規定のページ数にどうしても収まらない人は、このファイルの13行目、

```
%\renewcommand{\baselinestretch}{0.75}
```

の文頭の“%”を削除して下さい。

3. 図の入れ方

ソースを参照して下さい。

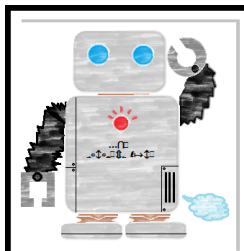


Fig.1: Figure test

4. 表の入れ方

ソースを参照して下さい。

Table 1: Table test

あ行	あ	い	う	え	お
か行	か	き	く	け	こ

5. ラベル (label) のすすめ

ソースを見れば分かりますが、図表や式にラベルを貼る事をお勧めします。これは、Fig.1 と使うことで、図などの番号を自動的につけてくれます。急遽、図の変更があったときなどに便利です。常に付けておきましょう。

ただし、新しくラベルを貼って最初の tex 処理では、処理が2回行われます。

6. 箇条書きの入れ方

行間が空きすぎるので、下のおまじないを使います。

```
\itemsep=-1ex
```

出力結果はこんな感じ。

使用前

- ・ 学部 (B) はビギナー。
- ・ 修士 (M) は召使い。
- ・ 博士 (D) は奴隷。

使用後

- ・ 学部 (B) はビギナー。
- ・ 修士 (M) は召使い。
- ・ 博士 (D) は奴隷。

7. 体裁の微調整

`\vspace{長さ}` や `\hspace{長さ}` を使うと縦方向、横方向の間隔の微調整ができます。次章との間は `\vspace{5mm}` で 5mm 分広くしてあります。

8. 結論

頑張るしかない。

参考文献

- [1] 小山猛, 山藤和男, 田中孝之, “介護用装着型ヒューマン・アシスト装置に関する研究 (第1報, コンセプト, システム設計と実機の開発)”, 日本機械学会論文集 C 編, Vol.66, No.651, 155-160 (2000).
- [2] T. Koyama, M. Q. Feng and T. Tanaka, “Development and Motion Control of a Wearable Human Assisting Robot for Nursing Use”, Proceedings of the International Conference on Machine Automation, 555-560 (2000).
- [3] “LaTeX コマンドシート一覧”, <http://www002.upp.so-net.ne.jp/latex/index.html>, 2016 年 3 月 24 日閲覧。